

旭川市総合計画審議会 第2回会議の記録

日時	令和元年9月20日（金）18時30分～20時00分
場所	旭川市9条通9丁目 旭川市職員会館3階 6号室
出席者	委員14名 石田委員，岡田委員，木谷委員，佐々木委員，佐竹（利）委員，早苗委員，澤委員，塩川委員，島山委員，東郷委員，仁木委員，西田委員，山田委員，吉田委員
欠席者	市川委員，柏葉委員，加茂委員，佐竹（明）委員，篠田委員，菅井委員，富樫委員，山下委員
会議の公開・非公開	公開
傍聴の数	0名
会議資料	次第 資料1 第8次旭川市総合計画基本計画改定案 冊子 第8次旭川市総合計画（本編）
会議内容	
1 開会	
2 議事録の確認	
事務局	（第1回会議の議事録について説明）
3 議事	
会長	本日の会議については，前日に引き続き，第8次旭川市総合計画基本計画の改定案について，審議を行っていくこととなるが，まず，会議の進め方について，事務局から，説明を受けたいと思う。
事務局	（資料1等に基づき，説明）
会長	只今，事務局から説明があったが，何か御意見や御質問はないか。 それでは，前回の会議に引き続き，資料1「第8次旭川市総合計画基本計画改定案」をもとに，事務局からの説明を受けて，その後，委員の皆さんからの意見を伺う。 前回の会議では，基本目標3までの意見を伺ったので，本日は，基本目標4から，皆さんの意見を伺う。 それでは，「基本目標4 自然と共生し，安全・安心な社会を支える強靱なまちを目指します」について，事務局から説明願う。
事務局	（基本目標4（基本政策8～基本政策10）について，見直しを行ったポイント，理由等について説明）
会長	それでは，基本目標4について，御意見や御質問はないか。
職務代理者	基本政策9の成果指標について，「ごみの総排出量」と「温室効果ガス排

	<p>出量」が設定されている。どちらも総量であるが、例えば人口が増えれば、当然、ごみは増えるし、温室効果ガスも増えるものであり、総量は増えてくるものであると考えられることから、指標としては、一人当たりの排出量として設定する方が良いのではないか。</p> <p>旭川市として、人口を増やしていくことや多くの企業の誘致を目指していくのであれば、総量を減らしていくことは難しいのではないかと思うが、どのように考えているか。</p>
事務局	<p>御意見のとおり、ごみや温室効果ガスについては、人口が減れば、総排出量が減っていく性質のものであるが、一方で、企業活動による排出もあることから、単純に一人当たりの排出量を指標とすることは難しい部分もあると考えている。</p> <p>人口が減ったとしても、企業活動など、地域経済の活性化等で総量が増える要素がある中、総合的に、総量を減らしていきたいというのが現状の考え方である。</p>
職務代理者	<p>人口が増えても、総排出量は減らしていきたいということか。</p>
事務局	<p>仮に人口が増えたとしても、現在の技術、例えば省エネルギー技術等の利活用などにより、総量は減らしていきたいという考え方である。</p>
委員	<p>基本政策10にかかわることだが、学校など公的施設の耐震化の達成状況はどうなっているのか。特に避難所になっているところなどの状況は把握しているのか。</p>
事務局	<p>学校の耐震化率については統計があるが、数字が手元にないため、次回、お示しさせていただきたい。</p>
委員	<p>学校の耐震化への目標や、耐震化を進めていくという文言をどこかに加えた方が良いのではないか。</p>
事務局	<p>建替えも含め、全ての学校において耐震化を進めたいと考えているが、財源との兼ね合いがあり、段階的に実施しているところである。</p> <p>学校の耐震化については、今回の見直しに当たり、基本政策4の施策2「安全安心な教育環境の整備」に、耐震化の推進についての新たに文言を追加しているところである。</p>
委員	<p>基本政策8の成果指標である「環境基準達成度」において、実績値は、14項目のうち、13項目において達成しているとのことであるが、達成できてない1つの項目は何か。</p> <p>また、見直しに当たり、その項目を達成するための施策は反映されているのか。</p>
事務局	<p>達成できていない項目は、光化学オキシダントであり、光化学スモッグの原因となるといわれているものである。</p>

	<p>この項目の達成のために、新たな施策の追加や修正などは行っていないが、現状の施策を継続していく中で、目標達成に向けた取組を進めていきたいと考えている。</p>
委員	<p>前の質問にも関連するが、成果指標に関して、数字についての説明がない。数値が改善又は悪化している理由をどこかに記載しなければ、成果指標が分かりづらいものになってしまうと思う。</p> <p>例えば、数値が悪化しているものについて、温室効果ガスの排出量が基準値よりも増えている。この理由が何なのか。</p> <p>また、災害や犯罪に対する不安を感じている市民の割合が、速報値ではあるがかなり増えている。</p> <p>これらの理由についてどこかで触れなければ、基本政策や施策として挙げているものの説得力が弱くなるように思うし、市の取組自体が上手くいっていないというようなメッセージにもなりかねない。</p> <p>成果指標の説明という部分が必要ではないか。</p>
事務局	<p>成果指標に関して、目標値の設定の考え方などを記載した資料については、次回の会議において、答申案をまとめるための資料として提供させていただきたい。</p> <p>なお、成果指標の目標値について、市民アンケートの結果を用いている指標については、第1期の目標値と第3期の目標値の中間値を設定している。</p>
委員	<p>市民アンケートは主観的な指標であるので、振れ幅がかなり大きくなるような気がする。</p> <p>アンケートを実施するタイミングによって、数値が良くなったり悪くなったりする可能性が高いので、もし、悪い数値が出ると印象が悪くなってしまふ。これらの理由について、脚注などでも簡単な説明があると良いのではないか。</p> <p>例えば、災害についての主観的な評価が悪化しているのは、おそらく自然災害が多発したことが理由であり、旭川市の問題というよりは、自然災害などの情報が増えたことが原因であると思うが、市の取組の印象が悪くなるということにもなりかねない。</p>
事務局	<p>昨年度、御意見をいただきながら作成した「進捗状況報告書」の点検評価の中において、現状と課題や今後の方向性の部分で、成果指標の数値についても触れながら評価検証を行っているところである。</p> <p>各成果指標について、どうしても分かりにくいものについては、説明の追加などを検討していきたいが、数値の評価検証については、基本的には、4年に1度の評価検証の中で行っていきたいと考えている。</p>

委員	<p>基本政策10に関連することだが、最近、全国各地において、火山噴火、台風、風水害、土砂崩れ、また、北海道では雪害など、様々な災害が発生している。また、災害はいつ起こるか分からない状況である。</p> <p>このような災害に備え、市内にも多くの避難所があり、市も予算を使い、備蓄品などの整備を進めているが、非常用発電機の整備があまり進んでいない状況である。電源の確保など、インフラ整備は重要であると考えている。</p> <p>また、災害時の要支援者については、平常時から地域で情報を把握しておくことが重要であるが、個人情報保護の観点から、情報を把握することがなかなか難しいという問題もある。</p> <p>建築物の耐震化についても、公共建築物をはじめ市内の建築物の老朽化が進んでいる中、学校を中心に、耐震化を進めていくことが重要である。</p>
事務局	<p>避難所における発電機などの資機材の整備については、市でも段階的に進めているところである。財源との兼ね合いがあるというのが現状であるが、今後についても、消防、防災の取組の中で、事業レベルや個別計画において、着実に進めていきたいと考えている。</p> <p>御意見のとおり、公共施設の耐震化も非常に重要なものであると考えている。公共施設については、市役所の庁舎も含めて、耐震化ができていない施設もあるが、今後も耐震化を着実に進めていきたいと考えている。</p> <p>民間の建物については、住宅ストックの改善などの課題もあるが、特に危険な空家は、市民の安心安全のためにも、しっかりと管理を行っていかなければならないと考えている。</p> <p>耐震化については、多くの人が集まる中心市街地の建物などには、国や道の補助制度もあることから、財源が許す限り、進めていきたいと考えている。</p>
委員	<p>基本政策10の現状と課題において、近年、集中豪雨で浸水被害が発生している旨の記載があるが、旭川市内でも、平成28年と平成30年に、市内のペーパン川でも河川が氾濫し、実際に大きな被害が発生しているところであり、このような近年の災害を踏まえた具体的な記載を行った方が良いのではないかと思う。</p> <p>また、先ほど、災害時の要支援者についての話が出たところであるが、平成30年の大雨の際にも、エリアメールによって何度も通知がされたが、その通知を踏まえて、実際に避難を行った人はあまりいなかったのではないかと思う。</p> <p>市民の皆さんの防災や安全確保に関する意識の向上という部分につながってくるのかも知れないが、市としても、大雨により河川の氾濫の危険が</p>

	ある場合には、市民が避難しなければならないという意識を高めるような取組も必要であり、そのような内容についても、記載した方が良いのではないかと思う。
事務局	<p>平成28年の台風被害、平成30年の豪雨について、河川の氾濫や水害も実際に発生しているので、現状と課題において、その部分の記載の方法について検討していきたいと考えている。</p> <p>また、情報の提供についても非常に重要であると考えており、市においても、エリアメール以外にも、例えばヤフーとも、危機的な状況となった場合には、情報が掲載されるような連携を行うなど、情報の提供を充実させている部分もあることから、そのような記載についても検討していきたいと考えている。</p>
会長	<p>他に御意見や御質問はないか。</p> <p>なければ、「基本目標5 互いに支え合い、共に築くまちを目指します」について、事務局から説明願う。</p>
事務局	(基本目標4 (基本政策8～基本政策10) について、見直しを行ったポイント、理由等について説明)
会長	それでは、基本目標5について、御意見や御質問はないか。
委員	<p>基本政策11の成果指標である「ワーク・ライフ・バランスを実現できている市民の割合」について、年齢を18歳から39歳までに区切って抽出することについて、何か理由があるのか教えていただきたい。</p> <p>また、市民アンケート調査について、アンケートの対象年齢は何歳から何歳までであるのか。</p> <p>さらに、この指標について、18歳から39歳までに区切って抽出した場合、実績値はどのくらいになるのか教えていただきたい。</p>
事務局	<p>市民アンケート調査については18歳以上を対象としており、本市の実際の年齢構成の割合に合わせて、無作為に抽出している。</p> <p>成果指標である「ワーク・ライフ・バランスを実現できている市民の割合」について、年齢を18歳から39歳に区切っている理由については、実際に仕事をしている年齢層で区切っているところであるが、なぜ39歳までと設定したかという理由についての詳細については、確認させていただきたい。</p> <p>また、市民アンケート調査について、現在の実績値は速報値であり、詳細なデータが出揃っていないことから、現段階で年齢を抽出して示すことはできないが、確認でき次第、お示ししたいと考えている。</p>
委員	例えば60歳までにするなど、成果指標の対象を一般的な退職年齢程度まで拡大することは考えていないのか。

事務局	<p>計画策定時の基準値の設定が18歳から39歳までとなっており、途中で年齢の設定を変更すると基準値との比較が難しくなってしまうという問題もあることから、現状においては、18歳から39歳までということで考えている。</p>
委員	<p>「ワーク・ライフ・バランスを実現できている市民の割合」について、18歳から39歳までに区切っていることについては、例えば、お子様がまだ小さな子育て世代において、上手く子育てと仕事を両立させることができているかを計りたいという意図があるかと思ったところであるが、年齢の設定については検討していただきたい。</p> <p>同じく基本政策11の成果指標である「本市に愛着や親しみを感じている市民の割合」と「まちづくりに関心がある市民の割合」が高いということが、昨年の会議においても話題になっていたが、「地域で主体的に活動している市民の割合」は低く、実際に地域で活動している人が少ないということが旭川市の課題であると思われるところである。</p> <p>関心があること自体は、たとえ活動に参加できなくても、それだけで素晴らしいことだと思うし、関心がある市民の割合は、今後も伸びていってほしいと思うが、地域で活動している市民をアンケートの結果だけで把握し切れているのかという課題もあると思う。</p> <p>今回の見直しに当たっては、基本政策11の施策1と2に、若者の活動の支援についての記載を追加しているとのことである。全ての市民の活動を集約したり、把握することは難しいかも知れないが、最近では、市内でも子ども食堂などの活動が活発になっているという話も聞いているところであり、本学の学生も、地域活動への参加ということで、子ども食堂に実際に参加するなど、世代間交流の一助となればということで参加させていただいている。そのような活動の集約と発信という部分についても、施策の中に表現を入れていただければ良いと思う。</p>
事務局	<p>御意見のとおり、市民アンケートについては抽出調査であることや、「主体的に活動」といっても、どこまでが主体的なのかということ計りきれない部分もある。</p> <p>実際には、学生の皆様や地域、職場の皆様が地域活動に参加していただいている部分は多々あることから、どのような記載ができるかについて、担当部と相談しながら、検討させていただきたい。</p>
委員	<p>基本政策11の施策2「地域主体のまちづくりの推進」について、重点施策に設定されているが、現行から文言の修正が行われていない状況である。</p> <p>重点施策となっているが、成果指標の数値があまり高くない状況である</p>

	<p>ので、表現として、てこ入れを行った方が良いと考えていたところである。</p> <p>各地区の地域まちづくり推進協議会の活動については、年数を重ねる中で、活動の範囲も増えてきているし、地域のイベントの回数も増えてきていると思う。このことから、施策の中にも地域まちづくり推進協議会という名称を加えていけば、重点施策としても印象に残るのではないかと思う。</p>
事務局	<p>御意見のとおり、地域まちづくり推進協議会については、計画の策定後に活動が徐々に活発化してきている部分もあるので、そのような部分も含めて、表現について検討させていただきたい。</p>
会長	<p>他に御意見や御質問はないか。</p> <p>なければ、次に、基本計画全体にかかわる項目について、御意見を伺う。</p> <p>基本計画全体にかかわる項目のうち、「都市像の実現に向けての重点テーマ」について、事務局から説明願う。</p>
事務局	<p>(都市像の実現に向けての重点テーマについて、見直しを行ったポイント、理由等について説明)</p>
会長	<p>それでは、「都市像の実現に向けての重点テーマ」について、御意見や御質問はないか。</p> <p>なければ、次に、基本計画全体にかかわる項目のうち、「都市づくりの基本方策」について、事務局から説明願う。</p>
事務局	<p>(都市づくりの基本方策について、見直しを行ったポイント、理由等について説明)</p>
会長	<p>それでは、「都市づくりの基本方策」について、御意見や御質問はないか。</p>
委員	<p>現行の4つの柱が基本方策の1から4になり、6つの領域が各基本政策に入ってしまったということだが、現行の6つの領域は、4つの柱にまたがるものではなかったのか。</p> <p>改定案の方が、すっきりして見やすくなったとは思いますが、6つの領域は、各基本方策のどこに入ってしまったのかが気になる場所である。</p> <p>例えば、6つの領域の(1)「健全性の確保」は、4つの柱にまたがるものではなく、4つのうちのどこかに入るものなのか。それとも、複数の柱にまたがるもので、それぞれの基本方策に分かれて入るものなのか。</p> <p>現行の6つの領域は、基本方策にどのように入ってしまったのかについて確認したい。</p>
事務局	<p>現行の6つの領域については、4つの柱にまたがるものであり、それぞれに関連してくるものではあるが、現行では、その関連性が分かりづらいつくりであったことから、改定案では、6つの領域の要素をそれぞれ4つの基本方策にそれぞれ分けて入れた上で、表現を行ったものである。</p> <p>現行の6つの領域を、それぞれ、どこに、どのように基本方策に入れた</p>

	かということについては非常に複雑であるため、分かりやすいように整理を行った上、次回、資料としてお示ししたいと考えている。
会長	他に御意見や御質問はないか。 なければ、次に、総合計画の推進にかかわる項目について、御意見を伺う。 総合計画の推進にかかわる項目のうち、「SDG s（持続可能な開発目標）と総合計画の関係について」について、事務局から説明願う。
事務局	（「SDG s（持続可能な開発目標）と総合計画の関係について」について、内容を説明）
会長	それでは、「SDG s（持続可能な開発目標）と総合計画の関係について」について、御意見や御質問はないか。
委員	総合計画は、市の最も大きな計画であるということで、これまでは個別計画とのつながりを図ってきたと思うが、今回、さらに国連レベルの目標とも整合性も見られたということで、まず、単純にすごいと感じたところである。 総合計画の基本政策とSDG sの目標が対比された表が掲載されており、関係性が分かりやすいと感じたところであるが、総合計画とSDG sを照らし合わせたときに、旭川市において特に力が入っており評価できると感じた点や、又は手薄になっていると感じた点など、改めて事務局で気付いた点などあれば、教えていただきたい。
事務局	例えば、SDG sの目標の1「貧困をなくそう」の部分のうち、子どもの貧困について、旭川市においては、ここ数年で注目し、取り組み始めたものであり、まだまだこれからであると感じたところである。 目標の16「平和と公正をすべての人に」の部分についても、最近、全国的な問題となっている児童虐待について、本市としても相談体制の充実などが必要であると考えており、世界的な目標と合致する部分があると感じたところである。 これら17の目標は、もともとは途上国向けのものであったということもあると思うが、環境に関するものが多い。旭川市でも、ごみや温室効果ガスの排出量の抑制に関する目標などもあり、可能な限り、再生エネルギーの利用拡大などを着実に進めなければならない。また、生物多様性の問題や外来種の侵入防止などの部分についても、世界的な目標とつながっていると感じた。 また、目標の14「海の豊かさを守ろう」について、旭川市に海はないが、川から海につながっているということもあり、ごみの総排出量を抑制していかなければならないなど、市の取組と世界的な目標がつながってい

	<p>ると感じる一方、例えば、目標の5「ジェンダー平等を実現しよう」の部分については、旭川市としてはまだまだこれからであり、課題もあると感じているところである。</p>
委員	<p>印象としては、総合計画をSDGsに無理やりはめ込んだような印象もあるが、ゴールとして、旭川市としては、いつ頃までに進めていきたいと考えているのか教えてほしい。</p>
事務局	<p>御指摘のとおり、すべての目標が、完全に合致するものばかりではなかったところであるが、目標としては、あくまでベースは総合計画であり、総合計画の目標年である令和9年度が一つの目安であると考えている。</p> <p>世界的な目標であるといっても、まずは旭川市において、誰一人取り残さない、持続可能なまちにしていくということを目指していく中で、それが北海道や、全国、世界につながっていくということであり、旭川市のレベルということであれば、総合計画の目標年である令和9年度であると考えている。</p>
会長	<p>本日、予定していた審議項目は全て終了したが、全体を通しての御意見や御質問はないか。特になければ、本日の会議はここまでとする。</p>
4 次回の審議会について	
会長	<p>次回の審議会について、事務局から説明願う。</p>
事務局	<p>次回の会議については、会長と協議の上、委員の皆さんからいただいた御意見を整理したものをお示ししたいと考えている。</p> <p>また、先日、実施した市民説明会で得られた意見や、パブリックコメントに寄せられた意見についてもお示ししたいと考えており、それらの内容のもとに、答申案の作成に向けて、委員の皆さんの御意見を伺いたいと考えている。</p> <p>日程等については、後日、改めて連絡させていただきたいと思う。</p>
5 閉会	
会長	<p>それでは、本日の会議はこれで終了する。</p>